

笑話

ナヴァーグワの知恵(イ)

(尻拭き)

昔ね、大変知能のいい、頭がいい、また、意志が強い男がおったそうです。そうしてですね、この部落から二人ね、昔の那覇の遊郭からの戻りにね、那覇の垣花いうて、あんまり気が強い者ですがね、もうこの武富の二人にね、

「田舎の人たち」と。

「はい、何ですか」言うた。もう、その那覇の人はね、

「海にうんこをやっておるぞ。そうしてね、あんた、

田舎グワ」

「はい、何ですか」言うたら、

「私のケツを拭いてくれんか」て。もう一人の人がです、

「拭いてあげなさいよ」言うたら、おんなじ武富の人が、

「拭いてあげなさいよ」言うたら、

「はい、拭きます。では拭きましょう。あんたは鼻紙

を持っておりますか」言うたらね、この那覇の人、
「はい、こつちから出して、はい拭きなさい」。鼻紙を取ってね、足を捕まえてね、もう海に落とすそうです。

そうしたらこの、落ちたのがね、もう、兄弟おったかしらん。

「兄さんよ、兄さんよ」言うたら、そのお兄さんはね、それをすくい上げてね、海に落ちてるのを。また、田舎の人はね、もうゆつくり田舎へ帰ると。

そうしたら、この兄さんはね、追い回して、
「あんただったですね、私の弟を海に落としたのは」言うたらしい。

「いや、私はこんな、私でないよ」。実際はその人であったのですが、

「私でないですよ。今さっき私を追い越して行った、向こうに行った人であるですよ」。そうしたら、

「私がやったて。私はもう胸がどきどきして、もう大変ですよ。私の胸を触ってみなさい。触っても何でもいい。私のような年寄りがあんたの若い弟なんかを海にうつつけるわけはいけませんよ」

「そうですか」言うて。そのぐらい知能あつた人がおつたらしい。

もう、私としてもこれは話ですがね、今から百二十三年前だと思っております。

字武富 長嶺長行